

---

夢

サリー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夢

### 【Nコード】

N30540

### 【作者名】

サリー

### 【あらすじ】

姉を演技性人格障害ではないかと思う私は姉を否定し続けて生活してきた。ある日偶然以前使っていた姉の携帯番号に電話をしたら、もう一人の姉が電話口に……。

## 姉

演技性人格障害。えんぎせいじんかくしょうがい。

4才年上の姉の病名は人格障害という精神疾患の内のひとつである「演技性人格障害」である。

私は縦12センチ横10センチ厚みは2センチほどでハードカバーの日記帳に今日あったことを記入しながらふと思った。姉を精神科に連れて行ったわけでもなく、文献を読み漁ったわけでもないまま、たたくの素人の私が姉を「演技性人格障害」であると決め付けているものか。でも、姉妹として35年近く一緒に過ごし成長してきた私には姉がどうしても普通の人、一般的な性格の持ち主とは思えないのである。

ベージュの硬い表紙に透明のビニールのカバーがしてある日記帳。手帳の高橋というブランドで一番近くにある書店の入り口近くに陳列してあった。

あれは3年前の12月上旬。冬にそろそろなろうかという土曜日に家族でラーメンを食べに行った。私の住む街は小さくおいしいラーメン店も行列のできるお店も特にはないが、それでも地域柄とんこつラーメンはどの店もおいしく価格も安い。その日は一新亭と書かれたのれんがかかった行きつけのラーメン店に行き、餃子セットなどを頼み、子供たちのクリスマスプレゼントの希望なんかを聞き取り調査をしつつ楽しい時を過ごした。そのラーメン店の丁度はす向かいに明文堂という小さな本屋はある。

「あーおなかいっぱい。ねえお母さん、本屋さんで本見ていい」  
長女の美佐子が甘えた声で話しかけてきた。

「そうね、そろそろ算数の問題集が終わるわね」  
私がそう言うと、「また勉強のはなし」。私はマンガを見たいのと  
「とプイと横を向いた。」

私たち4人はとんこつラーメンの匂いと餃子のにんにくの匂いを気

にしつつ明文堂へ入って行った。

「もう年末だね。システム手帳やカレンダーが沢山売ってある」  
同じ年の私の旦那が店に入るなりそうつぶやいた。確かに自動ドアの入り口から入ってすぐのスペースに所狭しとシステム手帳やら家計簿やらが山積みされている。

「お母さん、今年は家計簿つけないの」と主人がいやみつぶく言ってきた。

「つけるわけないでしょ。いやみはやめてよ」と私は主人を本気でにらんだ。

とにかく大雑把で適当な性格な私は何度も家計簿つけにチャレンジしたことがある。毎年この時期に書店に寄ると「よし、今年こそは家計簿でもつけてお金を貯めてみんなでハワイ旅行にでも行くぞ」なんてまるで禁煙のできないどこかの旦那様のような気分になるのだ。しかし続いたためしが無い。最長記録も

3ヶ月が限界だった。とにかく今日は面倒だから明日明日と思っている間に2週間くらいあつという間に経ってしまった、そのときには2週間前のレシートも記憶も無くなってしまっているのだ。

今年も「ずばらなあなたにぴつたり！」とか「ただ記帳するだけで、100万円たまる！」とか、なんだか私にも継続できそうなネーミングの家計簿がいくつも並んでいる。いかんいかん、このキャッチフレーズに惑わされてはいかん。私は大げさに首をぶんぶん振ってみせた。ふと家計簿コーナーの横に目をやると。小さいスペースに日記帳がおいてあった。ほとんどの日記帳は、縦25センチ横18センチほどの大きさばかりで表紙はふんわりしたお花のスケッチがほどこされていたり、子犬だの子猫だの写真つきだったりする。いかにも日記帳という感じで、恋する乙女にはいいかもしれないけどアラフォーの私にはちよつと・・・と言っしるものばかりだ。書く欄も見開きの左1ページがすべて1日分のスペース。毎日平凡な生活を送っている私は1ページどころか数行しか必要ない。これも家計簿同然、3日坊主になるのは目に見えている。そんな私だがな

ぜかその横に置いてあるのページユの日記帳を手に取り、買う決心をしていた。

「おねえちゃんの事を書いておきたいけど、どう思う」

私はシステム手帳を物色している旦那にぼそりと聞いてみた。

「何を書くって」と彼は聞き返した。

「おねえちゃんの事よ。例の病気のこととか・・・」

「おっ、それいいアイデア。毎回事件があるけどいつの間にか忘れるから、書き留めておくのはいいかもね」と彼は軽く同意してくれた。

「じゃあ買ってこよ」

「これもついでに頼む」と彼は黒い皮の手帳を私に差し出した。

「自分のものは自分のお小遣いでどうぞ」と私は言い、自分の日記帳だけを持ってレジへ向かった。

12月3日の欄をとりとめも無く今日あった出来事を書いて、最後に姉の病状を書いてページを閉じた。あれからもう3年も経つのだ。あの時3年生だった長女は6年生になりあと少しで私の背においつくほどに成長した。年長さんだった次女も3年生。長女とだったら二人でお留守番だつてできるようになつた。

あの時買った手帳の高橋シリーズの日記帳。私が生涯初めて3年も続いた日記帳は今年で3冊目になる。姉の病気「演技性人格障害」のことを少しずつでもいいから書きとめておこうと思い、3年経つた。

いまだに精神科に診察に行つてないし本人は気づいていない。しかし彼女の精神疾患はこの3年の間に少しずつ進行しているし、日記に書く内容も3年前とはかなり違ってきているのは確かだ。なぜなら本当の姉ともう一人の姉と私は二人の姉と日々過ごしているからだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3054o/>

---

夢

2010年10月15日22時37分発行